

めぐみイエス・キリスト教会

2019年11月3日(日)第一主日礼拝
週報「通算第479号」



2019年標題聖句

第Ⅱペテロ1章10節

《ですから、兄弟たちよ。ますます熱心に、あなたがたの召されたことと選ばれたこととを確かなものとしなさい。これらのことを行なっていれば、つまりくことなど決してありません。》

第一礼拝	毎週日曜日	午前10時～11時
第二礼拝	毎週日曜日	午後6時～7時
聖書の学びと祈り会	毎週水曜日	午後6時15分～7時15分

牧師 鈴木 竜 実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◇◆◇2019年11月3日 第一主日礼拝
第一礼拝 午前10時 第二礼拝はありません
司会 鈴木 竜実牧師 奏楽 佐野 みゆきさん
◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】

【賛美Ⅰ】 新聖歌428「キリストにはかえられまん」p. 690

【交読文】 No.44 詩篇第139篇抜粋 p. 913

【賛美Ⅱ】 新聖歌252「安けさは川のごとく」 p. 390

【使徒信条】

【主の祈り】

【先週説教】

【賛美Ⅲ】 オリジナルNo.9 「ひとつの心」

【聖書朗読】 ヨハネの福音書20章11節～16節(新約p. 204上段)

【祈 禱】

【説 教】 《マグダラのマリヤの場合》鈴木 竜実 牧師

【聖 餐 式】

【賛美Ⅳ】 新聖歌165「栄光イエスにあれ」 p. 235

【平和祈り】

【頌 栄】 新聖歌63 「父・御子・御霊の」 p. 85

【祝祷後奏】

※本日の聖書箇所(ヨハネの福音書20章11節～16節(新約p. 204)

20:11 しかし、マリヤは外で墓のところにたたずんで泣いていた。そして、泣きながら、からだをかがめて墓の中をのぞき込んだ。

20:12 すると、ふたりの御使いが、イエスのからだがお置かれていた場所に、ひとは頭のところ、ひとは足のところに、白い衣をまとってすわっているのが見えた。

20:13 彼らは彼女に言った。「なぜ泣いているのですか。」彼女は言った。「だれかが私の主を取って行きました。どこに置いたのか、私にはわからないのです。」

20:14 彼女はこう言ってから、うしろを振り向いた。すると、イエスが立っておられるのを見た。しかし彼女にはイエスであることがわからなかった。

20:15 イエスは彼女に言われた。「なぜ泣いているのですか。だれを捜しているのですか。」彼女は、それを園の管理人だと思って言った。「あなたが、あの方を運んだのでしたら、どこに置いたのか教えてください。そうすれば私が引き取ります。」

20:16 イエスは彼女に言われた。「マリヤ。」彼女は振り向いて、ヘブル語で、「ラボニ(すなわち、先生)。」とイエスに言った。

●ポイント1. マグダラのマリヤとは？

※ルカの福音書8章1節～3節「イエス様の伝道初期の頃に」(新約p.114)

8:1 その後、イエスは、神の国を説き、その福音を宣べ伝えながら、町や村を次から次に旅をしておられた。十二弟子もお供をした。

8:2 また、悪霊や病気を直していただいた女たち、すなわち、七つの悪霊を追い出していただいたマグダラの女と呼ばれるマリヤ、

8:3 ヘロデの執事クーザの妻ヨハンナ、スザンナ、そのほか自分の財産をもって彼らに仕えている大ぜいの女たちも一緒であった。

●ポイント2. ルカの福音書における同一平行記事から

※ルカの福音書24章1節～12節「綿密に調べ上げて」(新約p.154上段)

●ポイント3. イエス様が、復活後最初に現われたのは？ ペテロの次は？

※マルコの福音書16章9節～11節「別の追加文から」(新約p.94下段)

16:9 [さて、週の初めの日の朝早くによみがえったイエスは、まずマグダラのマリヤにご自分を現わされた。イエスは、以前に、この女から七つの悪霊を追い出されたのであった。

16:10 マリヤはイエスと一緒にいた人たちが嘆き悲しんで泣いているところに行き、そのことを知らせた。

16:11 ところが、彼らは、イエスが生きておられ、お姿をよく見た、と聞いても、それを信じようとはしなかった。]

※マタイの福音書28章8節～10節「他のマリヤたちに」(新約p.57上段)

◎先週のメッセージの概要【ペテロとヨハネの場合】

《イエス様がゲッセネマにて捕えられた時、弟子たちは二手に分かれました。

ヨハネは、『ペテロともうひとりの弟子は、イエスについて行った。この弟子は大祭司の知り合いで、ペテロを連れてはいった。』と書いています。今回は、ヨハネとペテロとの二人の関係について考えて見ることにします。

聖書は明確にしていますが、十二弟子ではペテロが一番年上であり、ヨハネが一番若かったことは間違いありません。しかもゼベタイの子ヤコブとヨハネは、イエス様の従兄弟にあたります。母マリヤの妹サロメの子なのです。

イエス様は、ペテロとヨハネをチームパートナーとして任命されました。その為、イエス様の十字架の側にいた弟子は、ヨハネとペテロだけでした。残りの弟子たちは、ベタニヤのマルタの所に身を寄せていたと考えられます。

さて、イエス様の埋葬の時に、「マグダラのマリヤとヨセの母マリヤとは、主の納められる所をよく見ている」となっています。この時、アリマタヤのヨセフの「新しい園の墓」まで、ペテロとヨハネが同行していたことは確実です。

それゆえ、マグダラのマリヤが走って、ペテロとヨハネの所に来て、「だれかが墓から主を取って行きました。」と言った時、二人はまっしぐらに墓へ走って行けたのです。なぜなら、「園の墓」の場所を知っているからです。

「大祭司の知り合い、イエス様の従弟、そして主が最も愛された弟子ヨハネ」ペテロの心の中には、ヨハネに対する「嫉妬・劣等感」があったことは否めないことです。だからこそイエス様は、復活後、十二弟子の中では、最初にペテロに現われて下さったのです。十二弟子のリーダーとしてのペテロに。

さてガリラヤ湖において、ペテロはヨハネを見て質問します。「主よ。この人はどうですか。」このペテロの質問こそ、ヨハネに対する劣等感の表われなのです。私たちは比べてしまうのです。人と。あるいは置かれた環境や立場。あるいは名声や地位や富。そしてどうしても「劣等感」を抱いてしまうのです。

イエス様は、私たち一人一人をそのまま、あるがままで召し出され、そして用いて下さいます。私たちのすべてを受け入れ、愛して下さっているのです。私たちのすべきことはただ一つです。それは「主に従う」ことなのです。》

◎お知らせ

※本日の午後礼拝はありません。次回礼拝は11月10日です。通常通りに行ないます。また次回「聖書の学びと祈り会」は、11月6日(水)に行ないます。